

広島県立美術館 名品セレクション

開館
50
周年
記念



Collection Exhibition
A Selection Celebrating the 50th Anniversary of
the Hiroshima Prefectural
Art Museum

《伊万里焼右衛門様式色絵馬》17世紀後半 撮影 色絵

秋の所蔵作品展

2018(平成30)年

9月12日(水) → 12月24日(月・振)

2階展示室

開館時間: 9:00 - 17:00

※9月21日までの金曜日は20:00まで、9月28日以降の金曜日は19:00まで開館
※入場は閉館の30分前まで

休館日: 月曜日

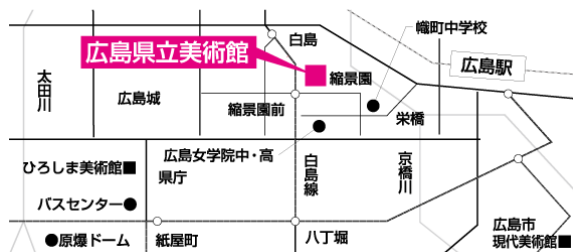
※特別展会期中・祝日・振替休日を除く

※11月5日は展示替えのため閉室

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円、
高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

press release

【概要】

秋の所蔵作品展 開館50周年記念
広島県立美術館名品セレクション

広島県立美術館は、1968(昭和43)年に開館し、1996(平成8)年に現在の建物に生まれ変わりました。そして、今年2018年に、開館50周年の節目を迎えることができました。そこで、今年度の所蔵作品展ではコレクションの魅力を様々な角度からご紹介しています。

開館以来、多くの方々のご協力を得て、コレクションを充実させてきました。収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本およびアジアの工芸」を掲げ、現在は総数5,000点を超えています。

秋期は当館所蔵品から約100点を選びすぎり、ベストセレクションをご覧ください。

来館するごとに新しい美の魅力を発見し、心とんでいただける展示をめざし、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。今後の所蔵作品展にもご期待いただきたく思います。

【内容】

日本彫刻・工芸

この展示室では日本の彫刻作品と伊万里柿右衛門様式の磁器を合わせてご紹介いたします。

当館の彫刻コレクションは、広島にゆかりのある作家に重点を置いたものです。彫刻という言葉が仏像や神像の意味しか持たなかった明治時代に近代的な作品を次々と発表した平櫛田中をはじめ、先取の気風に溢れた作家が少なくありません。彫刻に絵画的な要素を取り入れ独自の世界を築いた水船六洲や、人の形に縛られない新しい人物表現を模索した芥川永などです。こうした彫刻という表現を先頭に立って切り拓いた作家たちのエピソードを知ると、日本彫刻の歴史の中でその存在の大きさが鮮明に感じられます。

さて、豪華な彩色が目目を惹く柿右衛門様式の鉢や馬は、江戸時代に輸出用として作られたものと考えられています。海外からの注文を反映した造形と言いながら、そこには日本の職人たちの高い技術力と作家性、とりわけ先取の気風が強く感じられ、国内外を問わず陶芸の世界に大きな影響を与えたと言われることにも肯けます。

江戸時代「用の美」として発達しながら独自の美意識を育んだ伊万里の名品と選りすぐりの彫刻作品を通して、新たな表現を求めた作家たちの開拓精神を感じていただけましたら幸いです。



《伊万里柿右衛門様式色絵馬》
17世紀後半 磁器・色絵



平櫛田中《落葉》1913年(大正2年)木彫

press release

西洋美術

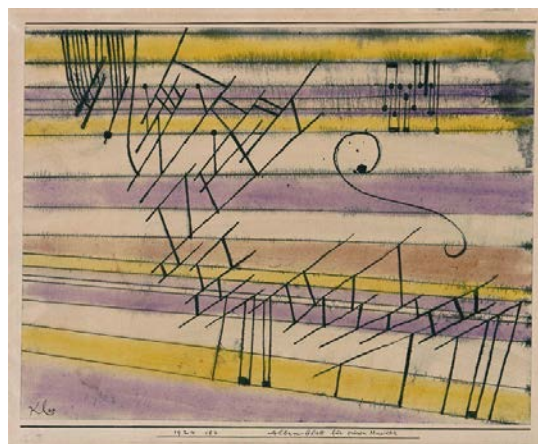
この展示室では、二つの世界大戦に挟まれた1920～30年代の美術を中心とする西洋美術のコレクションをご紹介します。

シュルレアリスムを代表する画家、ダリやマグリットは、無意識の世界を表現した作品で、見る人に奇妙な印象や驚きを与えました。幾何学的な抽象表現が定着したのもこの時期であり、彫刻においても、コールダーらの作品にその特徴を見出すことができます。

第一次世界大戦前のドイツでは、表現主義の特徴であるヘッケルらが荒々しい筆致と色遣いで画面に感情を込めた一方、戦後は新即物主義の画家たちカーノルトらが客観的かつ冷めた視線で対象を捉えるなど、美術動向に変化が起きました。同じく戦後、ファイニンガーやクレーは制作の傍ら、総合美術学校バウハウスで後進の指導に力を注いでいます。

リトアニアより移民としてアメリカに渡ったベン・シャーン、日本人の父とアメリカ人の母をもつイサム・ノグチの作品には、生い立ちにまつわる多様な表現をみる事ができるでしょう。さらに、ピカソが反戦の思いを込めた《フランコの夢と嘘》も、その制作過程を含めてご覧いただけます。

揺れ動く時代状況のなか、新たな表現を模索した芸術家たちの意気込みを感じていただければ幸いです。



パウル・クレー 《ある音楽家のための楽譜》
1924年（大正13年）インク・水彩・紙

日本洋画

当館の日本洋画コレクションは、重点方針である「広島県ゆかりの美術」と「1920～30年代の美術」に沿って収集した油彩画、水彩画、版画等を軸に構成されています。

二つの世界大戦に挟まれた1920～30年代は、雑誌等のメディアの発達や留学する日本人画家の増加などにより、西洋の先進的な美術思潮がほぼ同時代的に紹介されるようになる一方、世界的な不況の波も押し寄せ、戦争への傾斜から社会不安が広がった時代でもありました。洋画家たちは、新しい表現様式に学びつつ、単なる模倣ではない日本人ならではの絵画表現を探求することで、次第に厳しさを増す時代にあっても、個性と創意に満ちた作品を生み出していったといつてよいでしょう。

開館50年を迎えた今期は、広島の近代洋画史の中心作家である小林千古、南薫造、鬘光をはじめ、この時代に独自の画風を展開した日本洋画史を代表する画家たち、さらには、戦後、国際的に活躍した菅井汲や高橋秀ら26作家の作品をご紹介します。

近現代の多彩な作品を通じて、戦前期における近代洋画の成熟と、戦後の新たな展開を感じていただけることと思います。



小林千古 《ミルク・メイド》
1897年（明治30年）油彩・画布

press release

日本画

当館の日本画コレクションは、「広島」というキーワードを起点とし、ゆかりの作家や主題にこだわって収集されました。このため、収集対象となった作品の作られた時代は、室町時代から現代まで、約500年に亘っています。

なかでも、来年、入国400年を迎える広島藩主浅野家の別邸「縮景園」に関連した《西湖図》(後期展示11月6日～12月24日)、広島を代表する観光名所を描いた《厳島図》(前期展示9月12～11月4日)は、広島ゆかりの主題であることを重視したコレクションとして特色があります。

18世紀半ば以降、芸備(広島)出身の岡岷山、平田玉蘊らの活動は、京都や大坂(大阪)、江戸(東京)の文化に触れることで花開いたものです。その後、近代から現代にかけて、地域性よりも国際性を志向するようになった日本画壇のなかで、広島県出身の重要作家として当館が主要作品を網羅する児玉希望、和高節二、文化勲章を受章した奥田元宋、平山郁夫などが登場します。

多くの地域性に結びついて育まれた広島の絵画は、やがて日本画壇に独自の地位を占めるに至っています。当館所蔵の代表的な日本画作品を通して、広島美術史をぜひ実感してください。



狩野派《西湖図》16世紀(室町時代)紙本墨画

日本とアジアの工芸

当館の工芸コレクションは日本を含むアジアの工芸作品で構成され、陶磁、漆工、染織、金工など幅広い分野を含んでいます。

まず、日本の工芸から陶磁と漆工の優品をご紹介します。人間国宝・浜田庄司、戦後の現代陶芸をリードした八木一夫らの作品は、日本の陶芸が多様な展開を経て今日へと続いていることを示します。漆工では、16世紀にヨーロッパから注文を受けて制作された書見台、漆聖と崇められる松田権六の蒔絵棚(後期展示11月6日～12月24日)など、時代ごとに異なる美意識をご堪能ください。続いて、広島の工芸に目を向けてみると、陶磁、漆工、金工、竹工とじつに様々な分野の作家が活躍し、地域の文化を豊かに彩っていることがわかります。

また、アジアの工芸からは中央アジアの金工と染織、インドおよびインドネシアの染織をご覧ください。シルクロードの要衝の地、現在のウズベキスタンやトルクメニスタンで制作された刺繍布・衣装・ジュエリーは、世界有数の優れたコレクションです。インドの更紗やインドネシア・バリ島の経緯緋からもアジアの手仕事のパワーが伝わってきます。

それぞれの時代や地域に応じた美を生み出し、その美とともに生きてきた人々の姿を感じていただけることと思います。



《刺繍布(スザニ)》ヌラタ(現ウズベキスタン)
19世紀前半 木綿・絹糸・刺繍

press release

【関連イベント】

① 記念講演会・対談(共催:広島県立美術館友の会)

日時:12月8日(土)

第一部(講演会) 13:30~14:30

講師:高階 秀爾(元国立西洋美術館館長・大原美術館館長)

第二部(対談) 14:45~15:45

高階 秀爾×千足 伸行(当館館長)

② 当館学芸員による連続講座

開催日時	講師(学芸課職員)	タイトルと概要
10月6日(土) 13:30~15:00	じんない ゆり 神内 有理	■ 広島県立美術館の50年 広島県立美術館の50年の歴史を写真や資料から振り返る。
10月14日(日) 13:30~15:00	ふくだ ひろこ 福田 浩子	■ 個性ある美術館コレクション —日本とアジアの工芸 全国的にもユニークな存在である当館の工芸コレクションの特徴と見どころを豊富なスライドで紹介する。
10月27日(土) 13:30~15:00	やました ひさな 山下 寿水	■ 激動する美術—両大戦間期の ドイツ、フランスを中心に 第一次世界大戦という未曾有の戦争を経て、ヨーロッパで生まれた様々な芸術の動きについて、当館が所蔵する西洋美術作品を軸に紹介する。
11月3日(土・祝) 13:30~15:00	ふじさき あや 藤崎 綾	■ 近代日本洋画の魅力—当館のコレクションから 当館の近代油彩画作品を中心に、その造形的魅力や時代背景を紹介する。
11月25日(日) 13:30~15:00	かくだ あらた 角田 新	■ 自分を信じて—名井万亀の道— 現代でさえ、いわゆる美術の中で異彩を放つ名井万亀の作風。同時代ではなおさら突き抜けた存在だった。その作風はいったいどのようにして生まれたのか。その人間像を画像を使いながら紹介する。
12月2日(日) 13:30~15:00	すみかわ あきひろ 隅川 明宏	■ 広島の絵画と京・江戸 近世から近代に至る広島ゆかりの絵画について、京や江戸(東京)との関わりに注目して紹介する。

①②はすべて、会場:地階講堂

※申込不要、聴講無料、定員200名(先着順)

press release

③広島県立美術館 所蔵作品総選挙

秋の所蔵作品展の来館者に、今回展示している当館の名品約100点の中から人気投票を募ります。(1人1票)。

日 時:平成30年10月2日(火)～平成30年12月24日(月・振)

場 所:2階 第4室前特設コーナー

◎連続講座受講者及び人気投票者には特典として50周年記念オリジナルクリアファイルを謹呈します。

④友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00～／土日祝11:00～、14:00～(1時間程度)

場所:2階 展示室

参加料:無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像をご入り用の場合は、
当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館まで
ご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail m-kaminishis4677@pref.hiroshima.lg (上西宛)または、
iroeuma2@gmail.com

担当 学芸課 神内 有理

総務課 広報担当 上西 真由美 一色 直香